

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 11 月 10 日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ： オープニング、沖縄基地問題、在日米軍殺害事件、共通テストのプレテスト実施</p> <p>【特集】 外国人労働者受け入れ～現状と懸念～</p> <p>【特集】 米中間選挙～分断の先に何が～</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペトラ遺跡で土石流 ・ 沖縄基地問題 ・ 幕下力士が酒気帯び運転で事故 ・ 在日米軍殺害事件 ・ カリフォルニア州で山火事発生 ・ 金沢市での祖父殺害事件、強盗殺人容疑で捜査 ・ 宮城県石巻市の赤十字病院で「大地震でけが人殺到」を想定した訓練 ・ 阪神高速環状線で荷台から路上にショベルカーが落下 ・ 電池で動くロボット、遠泳のギネス記録に挑戦 ・ 中国当局が「世界で飼育されているパンダが史上最高の 548 頭」と発表 ・ フロリダ州の動物園でナマケモノ、母親が育児放棄し職員に育てられる ・ 共通テストのプレテスト実施 ・ 南米ガイアナで旅客機が胴体着陸、乗客 6 人がけが ・ 神奈川県平塚市、イノシシにちなんだだるま作りピークに ・ 【特集】 外国人労働者受け入れ～現状と懸念～ ・ 【特集】 米中間選挙～分断の先に何が～ ・ スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→やや問題あり <p>番組の冒頭では金平キャスターが「はい、アメリカの中間選挙は下院でトランプ大統領の与党が敗北しました。様々な人の動きを取材する中で政治の主人公は国民なのだという、当たり前民主主義の基本を再認識させられた今回の選挙でした。後ほどここワシントンからお伝えします。」と発言していた。この発言は 25 秒で、上院での共和党勝利という点を述べずに、下院での共和党敗北のみを取り上げたコメントは放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点からはやや疑問符のつく導入コメントであったと言える。</p> ・ 沖縄基地問題：結論→不十分 <p>就任後初めて沖縄を訪れた岩屋防衛大臣が玉城知事らと会談したが玉城知事との会談では平行線維終わったとのこと、基地の移設に向け関連工事を再開した政府は年内にも沿岸部の埋め立てに踏み切りたい考えだが土砂の運搬に使用する予定の港の使用許可が降りず計画は進んでいないとのこと、岩屋氏は午後には辺野古のある名護</p> 		

市の市長と普天間基地を抱える宜野湾市長とも会い意見交換を行ったとのことが報じられた。

また、岩屋防衛大臣の「普天間基地の危険性を除去するという、そして普天間の返還を実現する私共も沖縄の皆様もそこは共通認識だろうと思っております。」というコメントと、玉城知事の「私は先の選挙で辺野古の新基地建設反対を掲げ当選をさせていただきました。この民意はゆるぎのないところであるということを受容し受け止めていただく他ないのではないかと思います。」というコメントも取り上げられていた。

なお、名護市長や宜野湾市長との意見交換がどのようなものであったのかという点には触れられていなかった。

このトピックに当てられた時間は 89 秒で、沖縄の基地問題については名護市や宜野湾市にとっても大きな問題であるが、その市長との意見交換がどのような結果になったのか、そこでどういう意見が出たのかについて報じられなかったことについては放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点で不十分なものであったと言える。

・在日米軍殺害事件：結論→特に問題なし

自称江東区の会社員齋藤ありあ容疑者が昨夜東京立川市の住宅で在日アメリカ軍横田基地に所属する男性の首を包丁で刺すなどしたとして現行犯逮捕されたこと、男性はその後死亡したこと、齋藤容疑者は交際相手の男性の右の首めがけて包丁で刺したと容疑を認めているということであるが、その後の捜査関係者の取材で別れ話をするためにあって話がこじれたと供述していることが新たにわかったとのことが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 68 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

在日米軍に所属する人間が被害者となった事件であり、こうした事件が日本でどう扱われるのかという点については重要なトピックであると考えられることから、今後の報道についても注視したい。

・共通テストのプレテスト実施：結論→特に問題なし

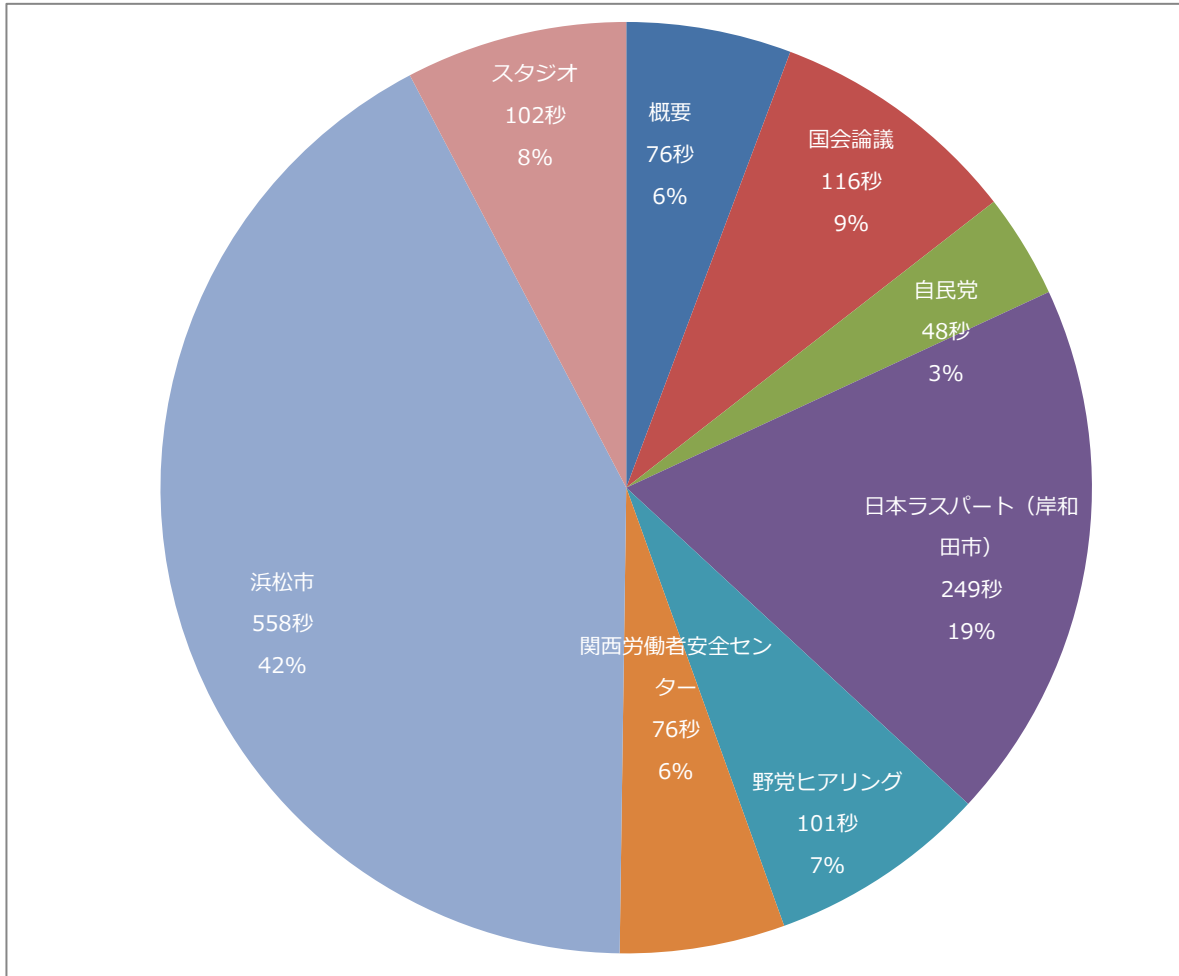
大学入試センター試験に代わって 2020 年度から実施される大学入学共通テストは思考力や表現力を問うため国語と数学の一部に記述式の問題が加えられるなどこれまでとは大きく変わること、大学入試センターは問題の難易度などを検証するため今日から全国の高校生 8 万 4000 人余りを対象に大学入学共通テストのプレテストをはじめたとのこと、生徒らは記述式が一部に加えられた国語と数学の問題にも取り組みんだとのことが報じられた。またプレテストは去年 11 月にも行われたが今年は試験会場が全国各地の大学になるなどより本番に近いかたちで行われたとのこと、大学入試センターは採点作業などを進め今年度中には正答率などの分析結果を公表する予定であることなどもあわせて伝えられた。

また実際に受験した高校生の「対策がしづらくなるので実力で点数を取れるように頑張りたいです。」や「マークとは違う形式になるので記述は大変だなと思いますけど。」というコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】外国人労働者受け入れ～現状と懸念～

外国人労働者の受け入れについて特集で取り上げた点の整理や論点の提示など概要を紹介したシーン、国会論戦を取り上げた場面、自民党の部会やヒアリングについて取り上げた場面、岸和田市にある日本ラスパートの外国人材受け入れについて紹介した場面、野党のヒアリングについて取り上げた場面。関西労働者安全センターの酒井恭輔氏の指摘を紹介した場面、外国人との共生についての浜松市の取り組みや様子を取り上げた場面、VTR を承けてのスタジオでのやり取りが繰り上げられた場面に大別された。この特集に当てられた時間は 1326 秒で、それぞれの場面について取り上げられた時間配分及び比率は以下の通りであった。



国会論戦については以下に朱記した場面が取り上げられていた。

立憲民主党蓮舫副代表「こんなスカスカなプロセスで、本当に決めるんですか？あまりにも虫の良い法案だと言わざるを得ないんですが、いかがでしょう。」

ナレ「入管難民法の改正案をめぐり、国会では論戦が続いている。」

ナレ「政府が来年4月の施行を目指す入管難民法の改正案は特定技能の1号、2号という在留資格を新たに設けるものだ。」

ナレ「1号は相当程度の技能と日本語技能を身につけた外国人に与えられ、在留期間は最長5年。家族の同伴は認められない。」

ナレ「2号は1号を上回る熟練した技能を持つ外国人に与えられ、在留期間に上限を設けず、家族の同伴も可能になる。」

蓮舫副代表「どの分野でどういう仕事についてもらうかが、わからない。そして報道で来年4月から14業種、4万人の受け入れを想定とニュースで配信されているけど、これ事実ですか？」

山下貴司法相「人手不足、人手確保が必要な産業上の分野ということで、あります。その中身については、今後、検討ということになるかと思います。」

ナレ「現状の外国人技能実習制度の問題点を指摘する声も。」

共産党小池晃書記局長「つらい労働に耐えかねて、失踪者が続出して、そして捕まったら、入管に拘束される。こうした現状をただすことなしに、外国人労働者の受け入れを拡大すればね、一層事態は深刻になって国際的な

批判を招くのではないかと。」

安倍首相「たしかにそういった状態があるということを認めた上に置いてですね、だからこそですね、今度は出入国管理庁というものを作って、体制を強化してそういうものに対応していくという」

自民党の動きについて以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「先月開かれた自民党の法務部会。人手不足に直面する業界団体から、ヒアリングが行われた。」

膳場「業界の中で人手不足はどの程度ひっ迫していると危機感を持ってらっしゃいますか？」

日本旅館業界「そうですね、われわれ宿泊業界では、今アンケート取りますと、87%の経営者はその人手不足だということを認識しています。」

全国農業会議所「人手不足で経営を諦めざるを得ないっていう方々が出てきているのは、事実だと、おもいますんで。」

膳場「そこに外国人の労働者を迎え入れたとして、短期的には問題は解決すると思うんですけども、長期的に見ると問題解決につながりますでしょうか。」

全国農業会議所「5年間ということはありませんんで、そういう経営計画がたつというふうに思いますけど、」

岸和田市にある日本ラスパートについては以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「大阪府、岸和田市にある工業団地にある町工場。ねじやボルトのさび止め加工を行う会社で現場で働く45人のうち、15人がベトナムから来た技能実習生だ。」

日本ラスパート 津村豊光社長「非常にまじめに仕事に取り組みますし、やはり、この言葉の問題を超えてね、それでもいろいろ仕事を身に着けて、あの自分たちが将来的には自立して、職を手付けるという目標を明らかにして、かなりこの真面目に働いてくれますんで、」

ナレ「その技能実習生の一人、グエン・バン・ルックさん。ベトナムの農村で生まれ育ち、3年前に来日した。」

記者「この3年はどうでしたか？」

グエンさん「日本人は熱心なせいや。それに優しい」

津村社長「彼らには初めての国で、全てにおいて初期段階ではサポートっていうのがいるんですよ。それをある程度こう親身になって、サポートしてあげられるそういう体制っていうのを整えてあげないと、『こういうところでこういうものが売ってますよ』とかっていう話をどんどん教えていかないと、そこの方は最初の方は付きっ切りで一緒に泊まり込みかなんかでやってました。やりましたね。」

ナレ「技能実習生との旅行を企画するなど、コミュニケーションも大切にしてきたという。」

津村社長「こちらあの、写真なんですけど、先日あの3年の研修を満了したということですね、記念にみんなで京都旅行に行きまして、」

ナレ「ルックさん達技能実習生は、会社が用意した工場近くの寮で集団生活をしている。」

ルックさん（翻訳・字幕）「箸と茶碗準備してください。ご飯できたよ」

ナレ「仕事を終え、寮に帰ると、全員で食事を作り、日本語の勉強をしてから、眠るのが日課だ。」

記者「日本ででの生活で一番難しかったことってどんなことですか？」

ルックさん「病院。難しいよ。自分でできないよ。医者と話すとき早いよ。あんまり聞こえない。」

ナレ「しかしこんな夢を持っている。」

ルックさん「国へ帰ってから、自分の店を立てたい。」

ナレ「津村社長は外国人の受け入れについて、こう話す。」

津村社長「自分たちがやりたくないしんどい仕事ってやらせていくと、やはりそこにはどうしても、上から目線でこう物事を言ってみたり、そうすると、本来生じなくていいような軋轢がね、その生じるんじゃないかな、そ

ういう気がしますんで。あんまり安い労働力で海外から人に来てもらおうっていうのは発想は我々の中では捨てたほうが良いんじゃないのかなという」

ナレ「現在の技能実習制度では、在留期間は最長五年だが、今回入管法が改正されれば、さらに長期の在留も認められることになる。」

津村社長「まあ将来的には、やっぱりいい人材というのを国籍問わずにね、どんどん登用できるチャンス、研修生の中から将来的に取締役クラスが生まれてくるっていうのも、一つ選択肢になると思うんですよ。」

津村社長「営業職になってもいいですし、逆に管理職についてもいいですし、っていうね、そういうこう、自由な何というか労働力の設計みたいな、外国の方をそこへ入れられることができて初めて、その今回の制度の意味っていうのがね、できてくるんじゃないかなと」

野党ヒアリングについては以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「一方技能実習生を受け入れている会社の中には、劣悪な環境で働かせているケースもある。野党はヒアリングを実施した。」

中国人技能実習生「2年前会社働いた。けがしました。」

ナレ「男性は右手の指を三本失った。段ボールを造る作業中、機械に巻き込まれたという。」

中国人技能実習生「会社は確認書にサインさせて、サインしないと、帰りなさい帰ってくださいと何回も言われました。私はサインしないです。働きたいです。働きたいのに、なんで私帰るんですか。」

ナレ「会社は一切責任はないとし、男性は治療費や今後の生活費など、全て自分で負担するよう、強いられたというのだ。」

ナレ「このほかにも、時給 300 円で働かされた。パワハラ、いじめを受け、自殺未遂をしたと訴える技能実習生もいた。」

ナレ「受け入れ先から失踪した技能実習生は、今年の 1 月から 6 月で、4279 人と、7089 人で過去最多だった去年のペースを上回る。」

関西労働者安全センターの酒井恭輔氏の見解については以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「技能実習生から相談を受ける関西労働者安全センターの酒井恭輔氏は一部の企業が、実習生たちの権利を軽視していることが問題だと話す。」

酒井氏「大きな事故が起きたら速やかに届けなきゃいけない。監督署に届けなきゃいけないっていう話があったとしても、そんな話知らん と労災の請求だってもしかしたら知らない可能性もあるんですよ。そんな会社が技能実習生を受け入れているんで、人を雇うという根本がなんかものすごくないところで、問題が発生してるんじゃないかとはおもいますね。」

ナレ「さらに酒井氏は人を雇い、人を育てる意識を企業側は持つべきだと指摘する。」

酒井氏「3 年間 365 日働きっぱなしというケースっていうケースがありました。自分の生きている間だけ、やっている間だけ会社があればいいやというつもりでやってるんだったら、それは外国人でも入れて、適当にやっちゃって、人権もへったくれもないような扱いもするということになっちゃいますよね。」

浜松市の取り組み及び様子については以下に朱記した部分を取り上げられていた。

ナレ「外国人の受け入れに先進的に取りくむ町がある。静岡県浜松市だ。8 万人の外国人が暮らしているとされ、市内には、外国人向けのスーパーがいくつもある。」

日下部「これはブラジル？」

店員「ブラジル。バーベキュー味とか」

ナレ「この日系ブラジル人が経営するスーパーでは商品のほとんどが、ブラジルをはじめ、南米から輸入したも

のだ。」

日下部「これブラジルの料理ですか？」

ナレ「ブラジル料理が食べられる店や、航空チケットを手配してくれる店も併設している。」

ナレ「日系ブラジル人 3 世の半田マリオさん。浜松市に来て 25 年になる。物流会社でブラジルとの輸出入部門を担当している。」

日下部「これ何？」

半田さん「アサイ。アサイのスムージー」

日下部「ジュース」

半田さん「アマゾンでしか取れないフルーツです。」

日下部「そうなんですか」

半田さん「自分がいいと思わないとね、売りにくいから、自分がすごくスムージーの中で一番おいしいかな？」

ナレ「この会社の社員 74 人のうち、14 人が日系ブラジル人だ。社長の福田さん。ブラジル人との文化の違いについて、こう話す。」

三幸運輸倉庫 福田 寛代表取締役「お客様が 7 時に来てくださいと言われてたときに、ブラジル人 7 時から 00 分から 5 9 分までが 7 時なんです。当然として自分もすぐそれに気づいていたから、あの 6 時という指示を出すようにしましたが、家族を逆に大切にしている、土曜日日曜日は働くのは非常にいや。でも平日の部分であれば、残業だとか、厳しい労働をしても、あの一根は上げない。」

福田氏「やはりいいところもあるし、悪いところもあるので、それをすべて受け入れなければ、なかなか」

ナレ「マリオさんには別の顔がある。」

ナレ「マリオさんはブラジリアン柔術の全国大会にも出場したことがある実力者で、道場を経営している。」

ナレ「道場の二回はスポーツジムになっていて、合わせて 100 人以上の会員がいる。」

マリオさん「仕事もできるほど、お金も入るし、自分で頑張れば、夢をかなえる国じゃないかなとそういう目で僕はそうおもってる。」

マリオさん「日本みたいにチャンスをとれる国は少ないかなと思う。」

日下部「あー日本人はあんまりそう思わないですね」

マリオさん「そう思わないけど、すごく外国人に対しては、まったく同じじゃないけれど、ある程度チャンスはね、日本人と同じチャンスがある」

ナレ「浜松市で外国人が増えたきっかけはバブル期の人手不足を受け、1990 年に行われた入管難民法の改正だ。ブラジルなどの日系人やその家族に定住の資格が与えられるようになった。スズキ・ヤマハなどの工業集積地である浜松は多くの外国人を受け入れてきた。」

ナレ「浜松市では、外国人と共生するためのさまざまな取り組みが行われている。」

日下部「えー入り口には大きくですね、ポルトガル語だそうですね、ようこそ、いらっしやい見たいなことが、書かれています。えーここはですね、浜松市が運営する外国人学習支援センターなんですけど、こちら今ちょうどですね、日本語の初級クラスの授業が行われているところです。」

生徒「おいしかったです。」

ナレ「日本語での日常会話を習得してもらおうと、8 年前に開設された市営の施設。授業料は無料で、託児所もある。1 年を通しておよそ 200 人の生徒が通うという。言語だけでなく、日本の文化を学んでもらう為のイベントも行っている。」

ナレ「多くの生徒は半年ほどで、簡単な分 B んしょをかけるほどになる。別の施設には、ポルトガル語や英語、

タガログ語など、複数の言語に対応した生活相談窓口も設置している。」

ナレ「この日は市内で働くオーストラリア人の女性が訪れた。」

女性（翻訳・字幕）「会社に給料をどう計算しているのか聞いたらすごく怒ってきました。」

職員（翻訳・字幕）「まっとうな質問だと思いますけど」

女性（翻訳・字幕）「私も聞いてもいいことだと思います。」

職員（翻訳・字幕）「正当な権利ですよ」

ナレ「相談内容は法律に関することや、人間関係の悩みなど、多岐にわたり、ブラジルの大学で心理学を修めたメンタルヘルス相談員も常駐している。」

ナレ「日本人と、外国人との地域活動に関するサポートも行っている。」

浜松市多文化共生センター松岡真理恵主幹「これはですね、あの例えば自治会でいろんなお知らせを翻訳をして、で外国人の方にもお知らせしていくしかも日本語も分かりやすい優しい日本語にして、伝えていくという工夫にしているのが大切だと考えています。」

日下部「鎌なんて言うポルトガル語も絶対わからないですよ。」

ナレ「浜松市の鈴木市長は、今特に力を入れているのは、子供の教育だと話す。」

浜丸市長「外国人の子供たちってというのは、あの一教育を受ける権利っていうのはあるんですけども、義務がないもんですから、学校に行かなくても済んじゃうですね。」

浜松市長「学校に行っていない子もいるんじゃないかってここにいるんじゃないかって一つ一つ調べ上げていってですね、ブラジルの方ですと、母国語であるポルトガル語も、あの一満足に習得できていない、日本語がどうかって言うと、日本語も門族に習得できていないまあそういう子供が例えばいるとすると、えー一つの言語をきちっと習得していませんので、まず学習能力が著しく低下するんですね。」

浜松市長「物事が考えられなくなってしまうんですね。」

ナレ「授業にも手厚いサポートがある。空き教室で授業を受けているのは、どちらも中学一年のフィリピン人の生徒。山崎さんは去年から、渡辺さんはこの5月に日本に来たばかりだ。」

教師「質量をここに書くんだったね。」

ナレ「理科や社会など、難しい単語を多くつつかう授業の時は、市の委託を受け派遣された指導員が個別授業を行う。浜松市にいる外国人の小中学生は合わせて、1700人。指導員の数はまだ足りないという。」

指導員「(外国人小中学生で) 中規模の小中学校が1校ずつできる子どもたちが浜松市内にいるわけですよ。

そこにきちんと予算が付いたら、国の予算で着いたら、いいな一っというふうに思っています。」

ナレ「鈴木市長は国会での審議について、こう話す。」

鈴木市長「実質これはある種移民の受け入れみたいなものですし、実際にすでに移民はいっぱいいるわけですよ、共生がしっかりできていけば、決してですね、治安が乱れることは無いんで、浜松はあの犯罪発生率は政令指定都市の中で最低限のレベルなんですね。計画的にちゃんと入れてちゃんと共生ができれば、脅威ではないと。いうふうに思います。外国の人の持つですね、能力とか、あるいは多様性っていうのを、都市の活力や発展に変えてこうこういう発想で、もう多文化共生を切り替えていまして、」

日下部「これは出稼ぎじゃないんだと、つまり、もう、ここに根付かせてもいいんだというそういう視点ですよ。」

鈴木市長「そうですね。それは労働力不足でね、労働の担い手として受け入れるかもしれないけれども、それはロボットを入れるわけではないんでね、みんな血の通った人間何で、いろんな思いや考えもありましてですね、まあそういう一人一人違う、人たちをですね、受け入れていくわけですから、血の通った人間であるっていうこ

とをですね、まず前提にですね、考えていかないとね、これは僕は失敗するとおもいますね。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

膳場「浜松での、外国人労働者の受け入れうまくってましたね。あの 20 年ほど前に私、静岡県で仕事していたので、当時日系ブラジル人が子供の教育とか、生活の様々な面で苦労していたのをよく覚えていましてね、その時と比べると、格段に社会での共生が進んでいる。ちょっと驚きました。」

日下部「浜松もはじめのうちはですね、言葉ですとか、文化、習慣の違いからですね、いろんなトラブルがあったそうですね、えー今回何人かのブラジルの人と話をしたんですけども、多くの人が、過去に何らかの差別を受けたんだと、とっていました。」

日下部「30 年たって、ようやくここまで来て今後はポジティブなね、共生の在り方を探っていく、そんな段階に来ているのかなと思いました。」

膳場「そう考えると、外国人労働者の受け入れを人手不足を補う穴埋めだとか、安くて使い勝手がいい労働力みたいな視点、いわゆる上から目線であらうとらえてたら、うまくはいかないんだろうなって気がしますね。」

日下部「まあ好むと好まざるを問わずですね、少子高齢化が進むにつれてですね、外部からの労働力、これはますます必要になってくんだと思うんですね。東アジアというのは少子高齢化の先進地域です。その中で門戸はもっと開かれた社会、そして、韓国や台湾もですね、外国人受け入れ本腰を入れ出している。ひょっとして遠くない将来中国も労働力不足に陥るといわれているんですね。」

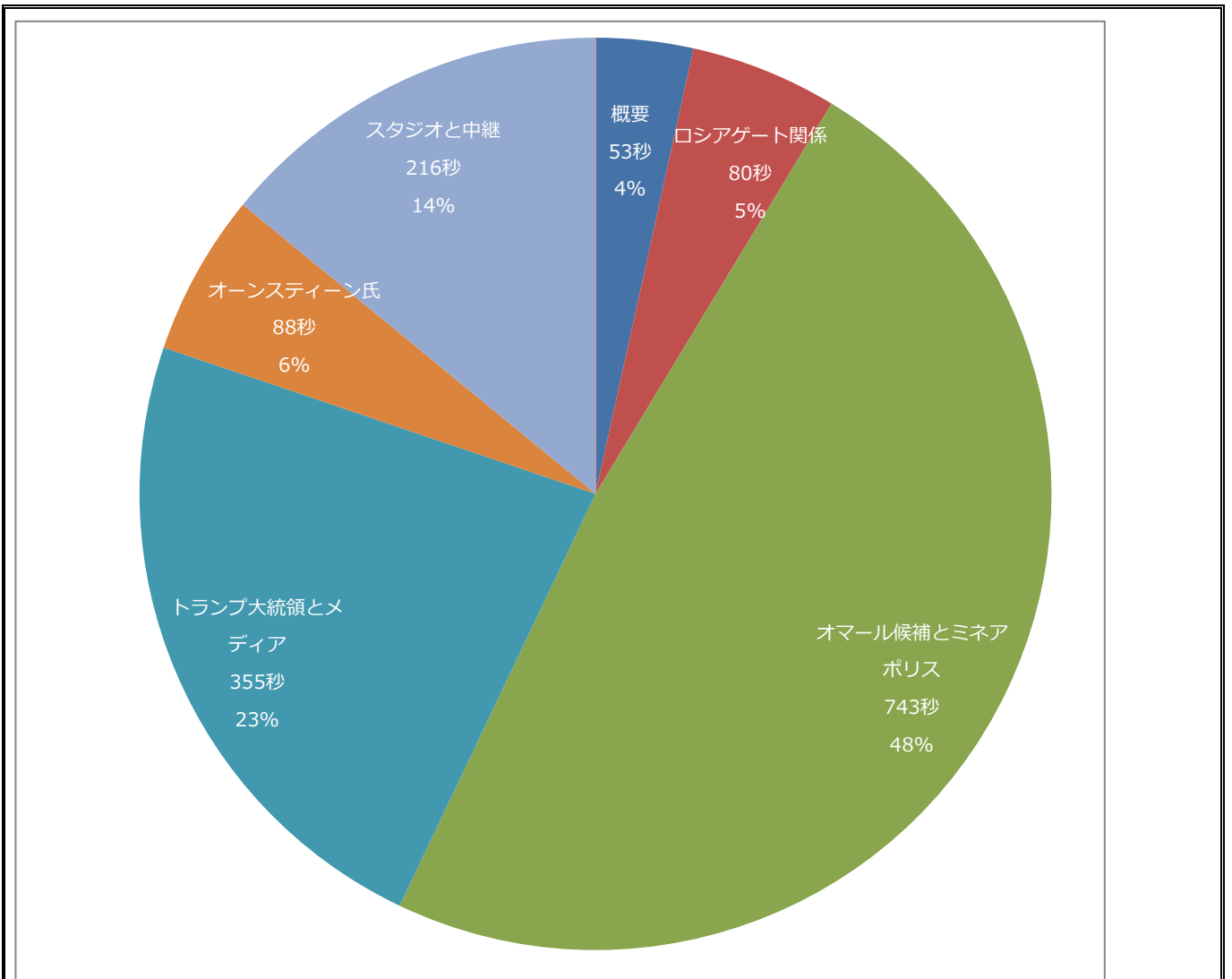
日下部「そうした中で、日本というのは果たして、外国の人にとって働きやすい場所なのかどうなのかこういう視点もですね、今後議論を続けるうえにおいてですね、大切な視点になっていくと思います。」

膳場「そうですね。」

国会について取り上げた場面は立憲民主党と共産党による質疑のみであり、国民民主党や他の野党からの質疑については取り上げられていなかったが、これについては放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」および同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点ではやや不十分のものであった。

・【特集】米中間選挙～分断の先に何が～

アメリカの中間選挙についての特集が組まれていた。この特集では特集についての概要を紹介した場面、ロシアゲート疑惑について焦点を当てた場面、オマール候補とミネアポリスについて焦点を当てた場面、トランプ大統領とメディアの攻防に焦点を当てた場面、保守系シンクタンクで選挙分析を専門とするオーンスティーン氏の見解を紹介する場面、スタジオと中継とのやり取りが繰り広げられていた場面に大別されそれぞれの場面について当てられた時間は 1535 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。



ロシアゲート関係については以下に朱記した場面が取り上げられていた。

金平「中間選挙の終わってからまだ2日しかたっていませんけれども、ちょうどホワイトハウスの真ん前の公園にですね、今市民集会が行われています。数百人の市民が今集まってきては上げてています。」

ナレ「中間選挙直後、セッションズ司法長官を事実上解任したトランプ大統領。これに抗議する集会が開かれた。」

ナレ「トランプ大統領はロシア疑惑の捜査を巡り、関係が悪化したセッションズ司法長官の代行として、自身に近いウィテカー氏を充てた。」

ナレ「中間選挙では、野党民主党に下院の過半数を奪われた。司法省への影響力を強めることで、ロシア疑惑に対する追及をかわす狙いがあるとみられている。」

ナレ「抗議集会に参加した人からは、」

抗議集会参加者（翻訳・字幕）「民主主義が危機に瀕しています。今こそはっきり主張しましょう。トランプは法を守れ。」

オマール候補とミネアポリスについては以下に朱記した場面が CM をはさみつつ取り上げられていた。

【場面1】

ナレ「今回の中間選挙で民主党が過半数を奪還する原動力となったのが、女性やマイノリティーの候補者たちだった。」

金平「えー今会場にですね、イルハン・オマール候補が入場してきました。今大変な歓声が上がっています。」

ナレ「ミネソタ州の選挙区では、史上初めて、イスラム教徒の女性下院議員が誕生した。アフリカ東部ソマリア出身で、難民だったイルハン・オマール氏だ。」

オマール氏（翻訳・字幕）「人種差別・白人至上主義者が脅かすのは、私のような黒人でイスラム教徒の女性移民です。現政権は私をアメリカ人としてみてくれません。でも私が負けないことは皆さんご存知でしょう。」

【場面 2】

ナレ「アメリカ中西部、ミネソタ州にあるミネアポリス。高層ビルが立ち並ぶ中心部から。2キロほど離れた場所にそのコミュニティーはある。」

ナレ「リトル・モガディシュ。およそ 8000 人のソマリア系移民が暮らす全米で最大のソマリア人コミュニティーだ。」

ナレ「イルハン・オマール氏は、地元のこの街で、選挙戦最後の集会を行った。」

金平「初のイスラム系女性下院議員が誕生するのではないかという全米の注目を集めているミネソタ第五選挙区の集会に来てますけれども、イルハン・オマール下院議員候補が今、壇上に姿を現しました。ソマリア語で今、挨拶をしていますね。」

オマール氏（翻訳・字幕）「私たちの大きな投票結果を見せてやりましょう。ありがとうございます。大勝利を収めましょう。」

オマール氏（翻訳・字幕）「ソマリア語で挨拶をするのは、私にとって重要なことなのです。ソマリア・オロモ・エチオピアなどミネアポリスに住む全ての東アフリカ出身者に伝えたいです。今回の選挙は私たちにとって真の民主主義に参加する機会なのです。ここは寒い州だけど、人々の心は温かい。火曜日はその温かい心で投票に行きましょう。」

ナレ「アフリカ東部ソマリア出身のオマール氏。ソマリアの内戦を一家で逃れたのは 8 歳の時、隣国、ケニアの難民キャンプで 4 年間を過ごした。そこで初めてアメリカの基本理念を知ったという。」

ビデオ（翻訳・字幕）「23 年前、難民キャンプで彼女はアメリカの約束を聞いていました。すべての人の繁栄とよりよい明日に向け、支援するというものです。」

ナレ「3 人の子供の母親で、2 年前には州議会議員に初当選。移民や難民の受け入れを拒む動きに反対してきた。」

ナレ「同級生たちはオマール氏の人柄について、」

高校の同級生（翻訳・吹替）「彼女は優秀でした。学業の傍ら、働いていました。とても素晴らしい人です。彼女のことが大好きです。」

高校の同級生（翻訳・吹替）「ソマリア人として、彼女のすべてを愛し、応援します。」

ナレ「多くの移民が暮らすミネアポリスでは、多様性が受け入れられてきた。」

金平「えーソマリア系移民の共同体にこう隣接した閑静な住宅街です。ここに私はモスレム、イスラム教の隣人を愛していますというようなサインが建てられています。」

ナレ「ミネアポリスにあるこの高校には、実に世界 11 か国からの生徒が通っている。教室の入り口には、こんな張り紙が。」

ナレ「歴史上の英雄には、リンカーン・ガンジー・キング牧師などの写真が並び、歴史上の悪者には、ヒトラーやビンラディンの写真が貼られていた。この人はどっちのところには、オバマ前大統領と、トランプ大統領の写真があった。」

ナレ「教室では選挙についての授業が行われていた。」

教師（翻訳・吹替）「10 歳のころ、僕は両親と同じ宗教でした。支持政党も両親と同じでした。皆さんもし両親のことが好きであれば、同じ考えになるでしょうが、当然違う選択肢もあります。」

ナレ「教師は、多様な選択肢があることを示す。」

"教師（翻訳・吹替）「アフリカ系はどちらを支持するかな？」

生徒（翻訳・字幕）「民主党」 "

"教師（翻訳・吹替）「年配の人と、若者の違いはどうだろう。年配の人は？」

生徒（翻訳・字幕）「共和党かな？」

教師（翻訳・吹替）「若い人は？」

生徒（翻訳・字幕）「民主党？」 "

ナレ「議論は民族の違いや貧富の差が支持する政党にどう影響するかにまで及んだ。自分たちのアイデンティティについて、聞いてみた。」

"ケニア出身生徒（翻訳・吹替）「私たちには二つの国籍があります。自分たちにとってはどちらの国も大事です。」

ソマリア出身生徒（翻訳・吹替）「国籍が何であれ、みんな平等です。」 "

"金平（翻訳・字幕）「選挙権はあるんですか？」

生徒（翻訳・吹替）「いいえ、私たちはまだ3年しかいませんが、選挙権を手に入れるには、5年の滞在が必要なんです。」

女子生徒（翻訳・吹替）「みんな同じです。」

生徒（翻訳・吹替）「みんな難民としてやってきました。」 "

ナレ「選挙戦終盤、移民問題についてトランプ大統領はさらに強硬な姿勢を示した。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「我々は最大で1万~1万5000人の軍を国境に配備する。」

ナレ「ホンジュラスなどの中米諸国から、アメリカに向かって進む移民集団キャラバン。その入国を防ぐため、トランプ大統領は国境の警備を大幅に強化すると発表した。すでにテキサス州などの国境近くで配備が進んでいる。」

ナレ「トランプ大統領は移民の国アメリカの根幹を揺るがしかねない発言もした。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「何十億ドルもの負担がかかっている出生地主義を廃止するつもりだ。」

ナレ「アメリカで生まれた子供には自動的にアメリカ国籍が与えられる出生地主義、これを大統領令で廃止するのだという。ミネアポリスのイスラム社会からはこんな声上がる。」

男性（翻訳・吹替）「候補者の中には私たちをスケープゴートにして、イスラム系アメリカ人はこの人間じゃないとか、信じているものが違うとかいう人もいますが、そんなアメリカじゃないです。アメリカの大統領が移民に反対したり、出生地主義を廃止したり、ここで生まれた子供たちに国籍を認めないというのは、賛成できません。ここはアメリカですよ。移民の国です。トランプだって、ヨーロッパのどこかから来ているんです。」

ナレ「この地区のイスラムコミュニティーの有力者、ジェイラニ・フセインさんもアメリカ本来の理念とは、かけ離れていると指摘する。」

ジェイラニ・フセイン氏（翻訳・吹替）「そんなことは違憲です。大統領令で変えることを憲法は認めていません。試すことはできるとしても、実現は不可能です。」

ナレ「リトルモガディシュの投票所には、多くのソマリア系住民の姿があった。今回の選挙では、女性候補者のピンクウェーブが巻き起こり、女性や若い世代が、期日前の投票率を押し上げた。この女性はオマール氏と、18年来の親友だという。」

女性（翻訳・吹替）「彼女はたくさんの問題を取り上げてくれました。今ワシントン DCに行こうとしているのも、向こうで起きている問題に、挑むためです。」

ナレ「78%の得票率で圧勝したオマール氏。勝利宣言の際には、こう訴えた。」

オマール氏（翻訳・字幕）「若い世代は一生懸命勉強すれば、成功できると考えていましたが、社会の厳しい現実にくじかれています。せっかくチャンスに恵まれた約束の地にやってきたのに、移民は偏見と憎しみに直面することが多いのです。こんな現実を傍観することはできません。手を取り合って民主主義の為に戦いましょう。権利と大切な自由のために戦うのです。アメリカの約束を守るのは私たち自身なのです。より良いアメリカにするのは私たちです。私たち自身こそ、待ち望まれていた存在なのです。」

トランプ大統領とメディアの攻防については以下に朱記した場面が取り上げられた。

ナレ「今回の中間選挙で、大統領とその支持者たちは、メディアを激しく攻撃した。」

"トランプ支持者（翻訳・字幕）「CNNは最低だ。」

ナレ「トランプ大統領から、たびたび国民の敵と名指しされてきた CNN のジム・アコスタ記者。」 "

"トランプ支持者（翻訳・字幕）「お前は政治的に偏るべきではない。ちゃんと報道しろ。お前は報道していない。偏っているんだ。」

ジム・アコスタ記者（翻訳・字幕）「ご意見ありがとうございます。」 "

ナレ「先週、フロリダで行われた演説会では、トランプ支持者たちは強い言葉で非難を浴びた。」

"金平（翻訳・字幕）「この状況をどう見ますか？」

ジム・アコスタ記者（翻訳・吹替）「トランプ氏の言動が、群衆の憎悪を煽り、メディアへの攻撃をエスカレートさせているんです。」 "

ナレ「そのアコスタ記者が中間選挙の翌日に行われた記者会見で、移民問題でトランプ大統領を追求した。」

"トランプ大統領（翻訳・字幕）「侵略者だと考えている。」

アコスタ記者（翻訳・字幕）「キャラバンは侵略者ではありません。移民のグループが中米からアメリカの国境の方へ来ていただけです。」 "

トランプ大統領（翻訳・字幕）「教えてくれてありがとう」

ナレ「ホワイトハウスのスタッフがアコスタ記者のマイクを取り上げようとしたが、質問を続行。ロシア疑惑について聞こうとすると、

"アコスタ氏（翻訳・字幕）「「ロシア疑惑で弾劾される懸念は？」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「懸念はない。あれはでっちあげだからだ。もういいマイクを置け」 "

ナレ「ホワイトハウスはアコスタ記者の記者証を取り消し、出入り禁止にした。」

"警備員（翻訳・字幕）「かなり前から入っていますね。」

アコスタ記者（翻訳・字幕）「5年前から2つの政権の取材をしてきたので。」 "

"ナレ「会見ではNBCの記者がアコスタ記者を擁護し、追及した。」

NBC 記者（翻訳・字幕）「ジムを擁護したいのですが、彼は勤勉な記者で」 "

"トランプ大統領（翻訳・字幕）「君のこともあまり好きではないね。正直。CNNは多くのフェイクニュースを報じているが、君たちは「国民の敵」だ。」

NBC 記者（翻訳・字幕）「なぜアメリカ国民の対立をあおるんですか？」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「座ってくれたまえ」

NBC 記者（翻訳・字幕）「質問に答えていただいていません。アメリカ人同士の対立をあおっているのはなぜかというのが私の質問です。」 "

トランプ大統領（翻訳・字幕）「そんなことはしていない。」

ナレ「今回の選挙では、トランプ大統領を支持するメディアが表舞台に姿を見せた。投票日前日、右派のラジオ司会者として知られるラッシュ・リンボー氏が登壇。ロシア疑惑の報道を巡り、メディアを批判した。

ラッシュ・リンボー氏（翻訳・字幕）「ニューヨーク・タイムズもワシントンポストも他のメディアも『トランプは選挙に勝つためにプーチン大統領と結託している』と書きたてた。根も葉もない噂です。作り話だ。」

ナレ「続いて登壇したのは、FOX ニュースの司会者ショーン・ハニティー氏。」

ショーン氏（翻訳・字幕）「そこにいるのはみんな”フェイクニュース”だ。」

ナレ「ジャーナリストが大統領の応援演説に駆け付けるといふ、極めて異例な事態。FOX ニュースは選挙戦と距離を置くように要請していたが、それでも」

ショーン氏（翻訳・字幕）「あなたの政権を的確に言い表すとすれば、『約束どおり、公約が守られた』ということですよ。」

ナレ「トランプ大統領はメディアに対し、こんな勝利宣言を行った。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「心配するな CNN NBC ABC CBS などと名指しはしない。我々を不平等に扱っている放送局だなんて言わない。彼らもうんざりしていると思う。我々が勝ち続けているからだ。」

佐藤祥太記者「リベラルな放送局を、一つ一つ読み上げて批判するトランプ大統領ですが、その隣にいるサンダース報道官もそれに拍手をしています。」

ナレ「三大ネットワークの1つ CBS で長年ホワイトハウスを担当しているメイジャー・ギャレット記者は」

メイジャー・ギャレット記者（翻訳・吹替）「トランプ氏はメディアが大好きでかまってほしくてしょうがないんです。」

ナレ「トランプ大統領が特定のメディアを国民の敵と決めつけていることについて、」

メイジャー・ギャレット記者（翻訳・吹替）「納得できない問題は記事で間違っていると、指摘するのが我々の仕事です。すべてが悪だとか、敵だとかは言いません。”敵”という言葉は憎しみが込められている感じがします。」

オーンスティーン氏の見解については以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「上院は共和党が過半数を維持したものの、下院では民主党が8年ぶりに過半数を奪還した今回の選挙。保守系シンクタンクで選挙分析を専門とするオーンスティーン氏に聞いた。」

オーンスティーン氏（翻訳・吹替）「共和党よりも、民主党にとって大きな勝利でした。今回民主党はこれまでとは異なる作戦に出たと思います。みんなが一つにまとまることにより大きな力点が置かれました。それが勝因となりましたが、トランプ氏のやり方とは非常に対照的でした。」

オーンスティーン氏（翻訳・吹替）「民主党の面々はこれまでとはかなり様変わりしますし、権力の中枢を目指す女性がどんどん出てくることでしょう。女性の議員がもっと多くなる時代はそう遠くないと思います。」

金平（翻訳・字幕）「2020年の大統領選にはどう影響する？」

オーンスティーン氏（翻訳・吹替）「今回は民主党に地滑り的な勝利が多くみられましたが、2020年もそうなるとは限りません。今後2年間の情勢に大きく左右されます。トランプ大統領の言動や、ロシア疑惑、世界経済や国際紛争にも左右されるでしょう。」

スタジオと中継の間では以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

膳場「ワシントンにいる金平さんに聞きます。金平さん今回の中間選挙で結局、トランプ大統領っていうのは、信任されたんでしょうか、されなかったんでしょうか。」

金平「大変難しい質問ですけども、まあ形の上では信任されたといえますけれども、那実としては信任されなかったっていう風に私は思います。早速岩田ワシントン支局長に聞きますけれども、岩田さんね、アメリカで取材してて今一番感じていることは何ですか？」

岩田支局長「そうですね、私はもともとアメリカにはですね、世界の民主主義社会のリーダーであってほしいと、そういった願望を持っていたんですけども、実際こちらで取材をしていますと、見たくないものを毎日のように

見せられてきたというのが実感です。」

岩田支局長「民主主義社会というのは、自分とは違う考えがいるということをまずは認めて、少しでも一致できる所を探していこうという大きな前提をみんなが共有する必要があると思うんですけども、トランプ大統領は自分と考えが違う人のことをからかったり、馬鹿にしたり、激しく攻撃して、支持者の一部もそれに喝さいを送るといふまさに惨憺たる状況になっています。そうした中で今回の選挙だった訳ですけども、こちら CNN の出口調査では、今回初めて選挙に行った人の中では、民主党にいた人が6割を超えていました。いままで政治に関心が無くて投票に行かなかったという人が、トランプ大統領は問題だと思って投票所に行ったという姿が見て取れます。」

岩田支局長「ただ一方ですね、この共和党にいたという方も3割以上いるという数字を見ますと、トランプ大統領への底堅い支持があるのも、又事実だといえます。」

金平「岩田さんね、あのホワイトハウスが CNN のアコスタ記者のプレスパスを取り上げたりね、政権とメディアの関係ってのも、ひどい状況になってますね。」

岩田支局長「そうですね、あのトランプ大統領は昨日報道陣からその、アコスタ記者をいつまで出入り禁止にするのかと聞かれて、決めていないと答えたいうえで、ホワイトハウスは自分にとって神聖な場所だ。だから記者人はホワイトハウスと、大統領の職に敬意を持ってほしいと話しました。」

岩田支局長「しかし、それであるならば、トランプ氏自身がアメリカの大統領という職と民主主義を本当に大切にしているのかどうなのか、2年後の大統領選挙に向けて、厳しく問われてくると思いますし、主権者であるアメリカの国民が何を考えてどんな選択をしていくのか、しっかり見ていく必要があります。」

日下部「金平さん、えー今回はですね、イスラム教徒の女性が初めて下院議員に当選するなど、これまでになかった動きもありましたね。」

金平「はい、ミネソタ州のイルハン・オマーンさんにはですね、正直圧倒されました。わずか27年前にソマリアの隣国、ケニアの難民キャンプにいた8歳の少女がその、アメリカに移民としてわたって、英語を必死に学んで、民主主義の仕組みを実生活を通じて学び、ついには、連邦議会の下院議員に当選したという奇跡のような物語こそ、アメリカンドリームの見本ではないかというふうに思いました。」

金平「トランプ政治はそうした流れとは全く逆の方向に進んでおり、報道の自由を蹂躪するなど、なんだかとても極端化していつているようで、私たち日本人にとっても、実に皮肉なことですけども、民主主義は何かということ、考える非常に良い材料を提供してくれているというのが、今回の選挙を取材しての感想でした。」

金平「以上、ワシントンからお伝えしました。」

移民についてであるが、トランプ大統領の「何十億ドルもの負担がかかっている出生地主義を廃止するつもりだ。」という発言について、実際に負担がかかっているのかということや移民について合法移民と不法移民の割合が昔と比べどのように変化してきたのか、という点については全く触れられておらず、「移民の国」というイメージが形成されてきた時代と現代のアメリカとで直面している移民の質がどう変わってきたのかだとか、政府支出の在り方がどう変わってきたのかという点が全く伝えられていなかった。これではトランプ大統領やその支持者が移民を問題視する理由やこの争点を理解する助けには全くならず、トランプ大統領やその支持者に対して一方的に不利な取り上げ方となっており、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること。」や同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして問題であるのみならず、問題の所在を伝えておらず重大な要素に触れていないという点については同三号「報道は事実をまげないですること」という点でも問題と言える可能性があるものだった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】 米中間選挙～分断の先に何が～：結論→印象操作の疑いあり

移民についてであるが、トランプ大統領の「何十億ドルもの負担がかかっている出生地主義を廃止するつもりだ。」という発言について、「移民の国」というイメージが形成されてきた時代と現代のアメリカとで直面している移民の質がどう変わってきたのかだとか、政府支出の在り方がどう変わってきたのかという点が全く伝えられていなかった。これではトランプ大統領が「移民の国アメリカ」にふさわしくないというイメージのみが先行することを助長するものであるといえるだろう。少なくとも、「移民の国アメリカ」というイメージを形成してきた「移民」が現代に至るまででどの様な変化を遂げてきたのかも伝えなければ公平な報道とは言えないし、印象操作を疑われる構成と見られてしまうものであろう。

検証者所感

・【特集】 米中間選挙～分断の先に何が～

岩田支局長の「民主主義社会というのは、自分とは違う考えがいるということをまずは認めて、少しでも一致できる所を探していこうという大きな前提をみんなが共有する必要があると思うんですけども、トランプ大統領は自分と考えが違う人のことをからかったり、馬鹿にしたり、激しく攻撃して、支持者の一部もそれに喝さいを送るといふまさに惨憺たる状況になっています。」というコメントであるが、VTRではFOXニュースの司会者ショーン・ハニティー氏がトランプ大統領の応援に駆けつけたシーンについて「ジャーナリストが大統領の応援演説に駆け付けるといふ、極めて異例な事態。FOXニュースは選挙戦と距離を置くように要請していた」と説明されていたが、保守系メディアとして知られるFOXですら選挙戦と距離を置くよう要請するという状況も異例であるし、メディアの側もこれまでトランプ大統領やその支持者に対しては、トランプ大統領がまだ共和党の大統領候補だった頃から「からかったり、馬鹿にしたり」したような感じで取り上げていたのであり、そうした態度もトランプ大統領やその支持者のメディアに対する敵意を醸成してきたのではないだろうか。

今回の選挙では確かに上院では共和党が、下院では民主党が勝利したと言えるが、今回の中間選挙ではVTR中のナレーションでも「今回の中間選挙で民主党が過半数を奪還する原動力となったのが、女性やマイノリティーの候補者たちだった。」と言及されているように、マイノリティーの候補者の当選が少なくない。

その点に着目すると、民主党は下院では勝利したとは言えるが、従来の民主党内のエスタブリッシュメントやワシントン勢力というのは敗北した、という見方もできるのではないだろうか。いずれにせよ、民主党内が今後どう変化していくのかという点も注目に値すると言えるだろう。